

青果物輸出産地セミナー in鹿児島 2023

「静岡における輸出産地形成の取り組み」

南野 真広

(株式会社日本農業 マネージャー
ジャパンベジタブル株式会社 代表取締役
静岡県かんしょ輸出促進協議会 会長)

● NIHON AGRI, INC.

2023.11.21

(株)日本農業 会社情報

本社所在地	東京都 品川区 西五反田 1-13-7 マルキビル 101 (静岡では、掛川市にて支店登記済み)
設立	2016年11月28日
事業内容	農産物の生産、仕入、選果、販売
資本金等	18.5億円(資本準備金含む)
売上	36億円(2022年度)
従業員数	60名(本社社員のみ)
関係会社	・ジャパンアップル (青森でのリンゴ生産) ・ジャパンキウイ (香川・群馬でキウイを生産) ・ジャパングレープ (栃木でブドウを生産) ・ジャパンストロベリー(山梨・群馬でイチゴを生産) ・日本農業土木 (リンゴ高密度植栽培の農園設備などを施工) ・株式会社RED APPLE (リンゴ生産販売、研究開発) ・ヤマナリ西塚 (青森県で100年続くリンゴ業者。22年度に事業承継) ・Nihon Agri Inc. Thailand (タイ子会社。日本の農産物販売&現地でイチゴを生産) ・ジャパンベジタブル(静岡でかんしょ等を生産)

● NIHON AGRI, INC.

「日本の農業で、世界を驚かす」



かんしょ事業立ち上げの背景

静岡県でのかんしょ産地形成事業は、国内外で高まる需要に対応した、持続可能な産地づくりを図るための重要な挑戦であると位置付けています

1. なぜかんしょ？

- ・「**高まる需要と落ち込む供給**」：ASEAN諸国で人気。日本からの輸出量も右肩上がりである一方、もとぐされ病で需給バランスが崩れ始め、仕入れ競争が過熱。

2. なぜ静岡？

- ・「**栽培適地**」：国内屈指の広範な砂地や、温暖な気候
- ・「**流通効率**」：大都市の中間に座し、港を有する
- ・「**生産者の質**」：干し芋の発祥の地(御前崎市)

3. なぜ日本農業？

- ・「**製販連携**」：輸出向けでは、川上～川下までを垂直統合する事業基盤を確立しており、ASEAN市場の需要創出を牽引できる



既存産地を奪い合うゼロサムゲームではなく、国内外需要に応えられるように、持続可能な形で供給量自体を増やしたい。

GFPフラッグシップ輸出産地形成プロジェクト

静岡県かんしょ輸出促進協議会 取り組みの概要（静岡県）

<取り組み内容>

大ロット輸出に向けた生産方法の転換

- 掛川市、御前崎市、袋井市、浜松市のエリアで、荒廃農地を中心に土壌改良を行うことで農地を再生し、20ha分の新規作付を実施
- 加工用から単価の高い青果用への作付切替及び契約農家への栽培指導の実施
- 大規模営農に対応する定植機や大型収穫機の導入、IoT機器を活用した作業の自動化・効率化体制の構築

集荷から船積みまでの方法の転換

- 40ftコンテナ満載を前提とした輸出環境の構築
- 収穫用コンテナの無料貸与や収穫物集荷のための中継地点の設置による集荷の効率化

販路拡大・認知度向上等

- 青果用かんしょの根強い人気のある東南アジア圏の販路に対して、清水港をハブとしながら海外輸出
- 海外の日本食レストランとの連携によるB品・C品を使用した加工品の開発、カナダや中華圏からの引き合いに対応するため船便/航空便による海外へのテスト輸出

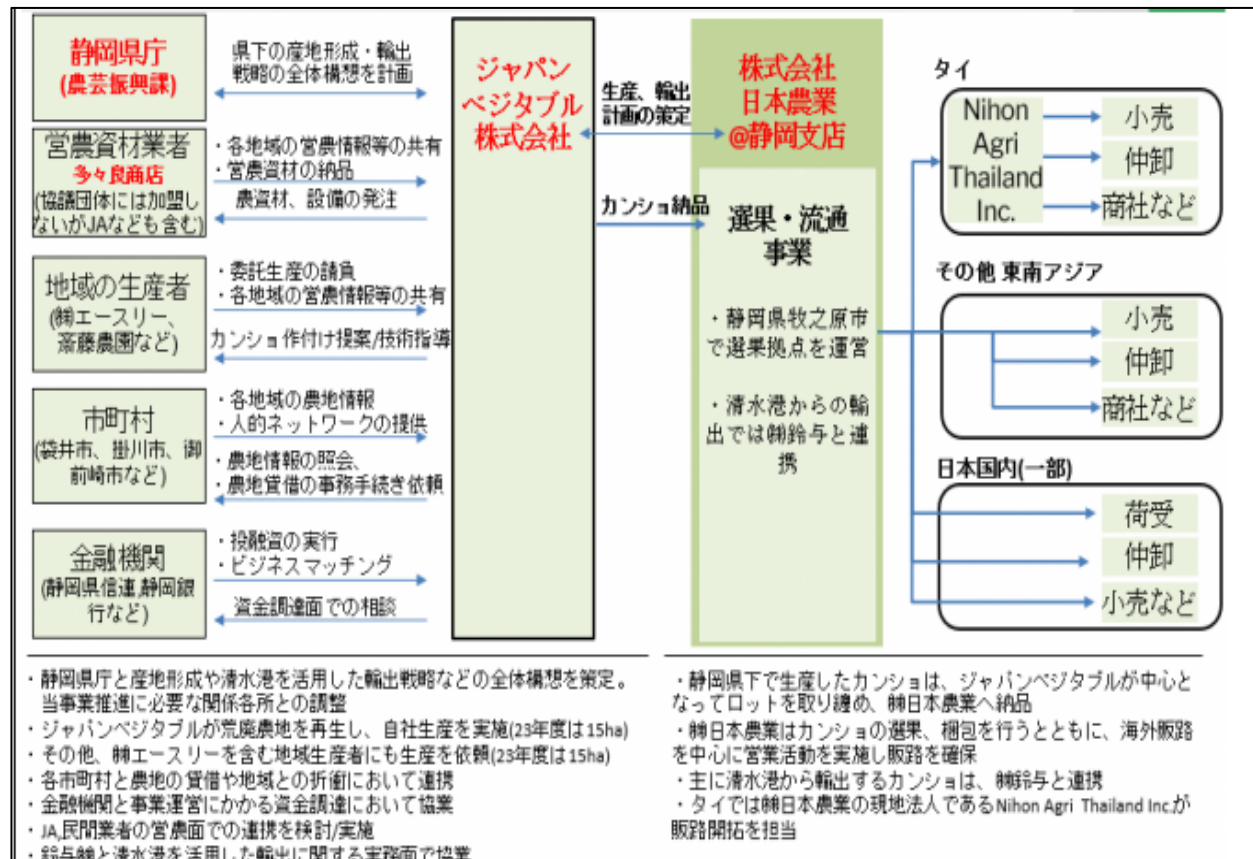
● NIHON AGRI, INC.

<輸出額の目標(百万円)>

品目	令和3年度	令和6年度
かんしょ	—	106

<実施体制>

※赤字は静岡県かんしょ輸出促進協議会の参画者



2023年度かんしょ事業取り組み概要

県内で荒廃農地を中心にかんしょの作付け・選果梱包を主導し輸出拠点として清水港を活用する事は、流通効率において多面的な利点があります。

生産(仕入れ)

- ・自社生産 (10ha)
- ・契約農家 (15ha)
- ・JA/市場/産地商人

選果梱包

- ・掛川市の自社選果場で選果梱包(静岡県産500t, 他県産1,000tを取扱い)

販売(輸出)

- ・清水港から海外へ輸出



かんしょ輸送結果 (山の洲産品の清水港輸出拡大事業結果)

輸送実証の内容

- ・静岡県にて、ジャパンベジタブル(株)および契約農家が生産したかんしょの選果梱包を行い、清水港からタイへ輸出した。
- ・輸送環境、等級等の条件が異なるカンショを計4コンテナ輸出し、現地で着荷状態の確認と販売可能な個体は試験販売を実施した。

実証の結果

- ・年内の輸出：他港と遜色のない輸送品質。
航路の活用も現実的
- ・年明け輸出：着荷ロスが若干高くなった。
産地・物流・現地関係者を
含めた更なる改善策が必要
- ・日本産かんしょの需要は現地でも上昇傾向
年明けの高単価が期待できる時期の販売期間を継続するためにも、如何に現地での着荷品質を高められるかが重要となる



2022/12月輸送ロット



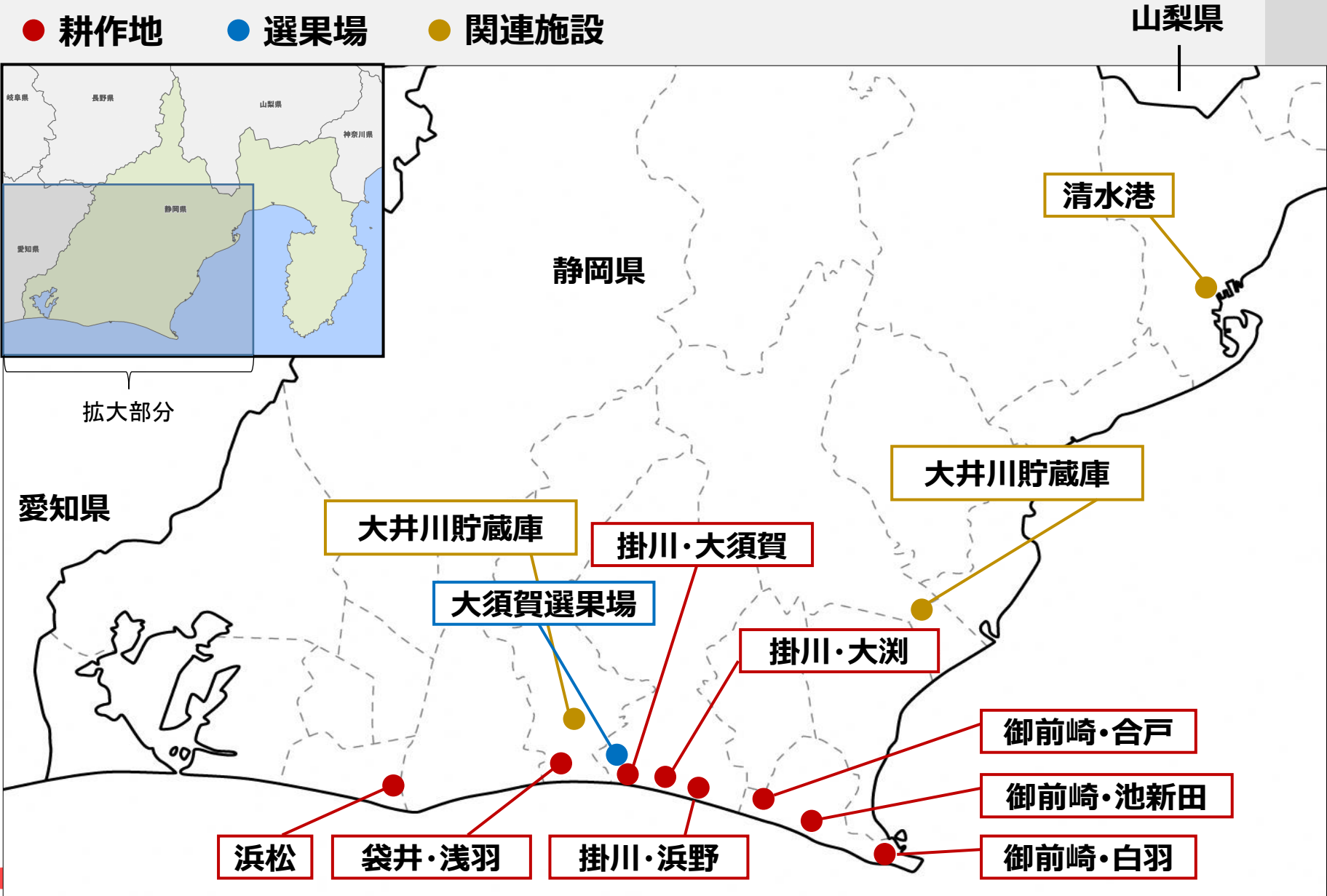
2023/2月 輸送ロット



現地での販売の様子(左:袋詰め、右:焼き芋)



耕作地及び関連施設位置関係図



成果目標の達成状況

<サマリ>

成果目標(成果目標は目標年度(R5)における目標)	進捗(R5年4月1~10月20日)
(1) 輸出額:105,000,000円	(1) 輸出額:76,322,860円
(2) 輸出増加割合:1000%増 (R4対比金額ベース)	(2) 輸出増加割合(R4対比の金額ベース):400%増
(3) 輸出量:300t	(3) 輸出量:206t

<国別の達成状況>

成果目標(成果目標は目標年度(R5)における目標)	進捗(R5年4月1~10月20日)
(1)タイ: 75,600,000円/ 216t	(1)タイ:41,785,800円/113t
(2)香港/12,000,000円/24t	(2)香港:2,442,000円/9t
(3)台湾:12,000,000円/24t.	(3)台湾:9,077,500円/26t
(4)シンガポール:6,000,000円/24t	(4)シンガポール:21,544,600円/55t
(5)カナダ: 6,000,000円/12t	(5)カナダ:0円/0t
(6)ドイツ: 当初計画なし	(6) ドイツ:65,600円/0.2t
計 105,000,000円/ 300t	計 76,322,860円/206t

各取り組み内容の進捗状況

大ロット輸出に向けた生産方法の転換

計画	進捗
掛川市、御前崎市、袋井市、浜松市のエリアで、荒廃農地を中心に土壌改良を行うことで農地を再生し、20ha分の新規作付を実施	自社圃場10ha、契約農家15haの計25ha（うち荒廃農地からの転作約19ha）での作付け分のうち、約10ha分の収穫完了
加工用から単価の高い青果用への作付切替及び契約農家への栽培指導の実施	加工用で生産していた農家を中心に、現地訪問、勉強会を複数回実施。（開催トピック：基ぐされ病対策、アリモドキゾウムシ対策、青果用カンショ防除体系など）
大規模営農に対応する定植機や大型収穫機の導入、IoT機器を活用した作業の自動化・効率化体制の構築	Iotセンサ搭載したトラクター、定植機、大型収穫機導入済み。加えて、ドローンによる防除を試験実施。県版GFP参画企業と連携し、ドローンでの防除免許取得済み（他社/自社）

荒廃農地の天地ガエシの様子



さつまいも専門学者を
招聘しての地域農家との勉強会



IOT機器を用いた作業の効率化



各取り組み内容の進捗状況

集荷から船積みまでの方法の転換

計画	進捗
40ftコンテナ満載を前提とした輸出環境の構築	完了事項 • 大型の貯蔵倉庫を静岡・茨城にて確保済。 • 選果場の拡大による選果キャパシティの増強済。 • 物流業者各社との協議による国内/海上輸送費の低減。(10t/4t/パレット輸送/市場間輸送の輸送手段確保) • 自動重量選果機1台納品済 • 段ボール封函機1台納品済 未済 • 産地バンニング用のバンニングスロープ (12月納品予定)
収穫用コンテナの無料貸与や収穫物集荷のための中継地点の設置による集荷の効率化	• 収穫用コンテナ50,000個を契約農家への無料提供するために購入済み。各契約農家へ配布済。 • 選果拠点を契約農家でも納品しやすい立地に移転済

バンニングスロープ



重量選果機



段ボール封函機



各取り組み内容の進捗状況

販路拡大・認知度向上等

計画	進捗
海外の日本食レストランとの連携によるB品・C品を使用した加工品の開発、カナダや中華圏からの引き合いに対応するため船便による海外へのテスト輸出	・ タイへ静岡県産B品C品を原料輸出。現地でサツマイモペースト、冷凍焼き芋をOEM製造しThai fex出展済。 ・ タイの火鍋レストランチェーンにB品を現地加工した冷凍焼き芋を提案し、商談成約済み。現在10店舗で販売中 ・ タイ大手財閥経由での小売店舗との大口契約成約間近 ・ 南アフリカの顧客候補産地ビジット実施済み。静岡県産に強い興味あり。現在相手国通関条件調査中。 ・ 香港台湾の顧客産地ビジット実施済み。輸出開始 ・ カナダ東海岸の輸入業者、興味あり。サンプル送付手配中。 ・ ドイツ小売店舗販売開始。

Thai fexでの静岡県産
カンショを用いた加工品商談の様子



静岡県産カンショを原料とした
現地製造商品のサンプル



静岡県産を押し出した店頭POP
ポスターなどの設置風景



南アフリカの顧客候補の
産地商談会の風景



静岡県内におけるかんしょ産地化に向けた草の根活動・広報(例)



御前崎市特別支援学校生徒との
植え付け体験(NHK静岡で放映)



エコパ(掛川市)でのイベント出展



駿府城公園(静岡市)での
おもフェス出展



御前崎市・掛川市・袋井市
での草刈り会の参加 JR東海



- ・掛川SDGsプラットフォーム
への登録完了
- ・掛川市ふるさと納税への出品



静岡でのサツマイモ産
地形成事業に関する
JETROによる取材



契約農家拡大に向けた中西部
地域の大規模農家・東部の
行政との作付け実証
(株すずなり・伊豆市など)

その他

- ・静岡県農業会議、GFPセミナー等での登壇&情報発信
- ・JAハイナンとの国内販売での協業(協議中)
- ・経済連・静岡VFとの協業(出荷実績あり)
- ・JR東海社とのフードロス削減に向けた取り組み(協議予定)